

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)		-	-
		一般小売店〔事務用品〕 (店員)	・働き方改革関連商材や消費税の引上げ前の案件受注が見込まれる。
		家電量販店(本部)	・当月は4K・8K放送の開始もあり、4Kテレビや有機ELテレビの販売が好調である。またキャッシュレス決済のキャンペーンでの盛り上がりも一部にある。年度末に向けて、消費税の引上げ前の需要で住設関連に動きがあることに期待している。
		乗用車販売店(経営者)	・例年明けからは初売りなどのイベント開催も予定しているので、販売量も増える見込み。
		都市型ホテル(役員)	・宴会部門において企業、団体の周年事業、慶事の祝賀会やコンベンションなど大型の予約が堅調に推移しており、全館での景気動向はやや良くなると見込んでいる。
		通信会社(職員)	・新商品の発売により、廉価版も出回り市場が活性化していくとともに、前年実績のあった年始以降のキャンペーンとの相乗効果で販売増を期待している。
		通信会社(役員)	・4K放送の予約と2月下旬以降の商戦期を迎えるため、更なる契約数の増加が見込める。
		住宅販売会社(従業員)	・不動産が動き始めると、客にも活気が出て住宅工事も増加傾向に向かう。
		商店街(代表者)	・消費税の引上げ前の駆け込み需要がそろそろ始まりそうだが、財布の中身が増えておらず、緩むこともなさそうである。
		商店街(代表者)	・消費税の引上げの影響がいつから、どのような形で現れるか、つかみきれない。
		一般小売店〔精肉〕(店長)	・肉の販売は相変わらず好調だが、加工品のハムの動きがやや鈍くなっており、それで相殺という形の動きがずっと続くのではないかとみている。
		百貨店(売場主任)	・前年の1～2月にかけて雪の影響で来客数が大幅に減り売上が低迷した。今後の3か月予報によると気温及び降雪も平年並みとのことなので、油断はできないが、悪天候で売上が大きく下振れする要因はないと考える。
		百貨店(販売促進担当)	・平成最後のお祝いムードに加え、東京オリンピックや大阪万博など将来に向けての期待感は強まっているが、消費税の引上げや少子高齢化など将来への不安が払拭されず、先行きは全く不透明である。
		百貨店(営業企画)	・婦人アパレルが回復してきているが、この状況がいつまで続くかわからない。
		スーパー(店長)	・賃金上昇がみられるが、景気を良くしていくほどではない。
		スーパー(店長)	・現状の動きより悪くなるような感じではないが、良くなる様子もない。
		スーパー(総務担当)	・10月に最低賃金は上がったものの、給与所得が増えたとは感じられない。ただし、応募が少なく人手不足が続いていることから、景気は良い方向へ向かっていると取れるが、変わらないと考える。
		スーパー(店舗管理)	・良くなる要素が見当たらない。
		コンビニ(経営者)	・来客数と単価共に大きな変動がない。
		コンビニ(エリア担当)	・天候が、特に降雪について不確定のため、読みにくい。
		コンビニ(店舗管理)	・消費税の引上げを控え、小売業の我々は軽減税率の対応やキャッシュレス決済のポイント還元など、システムやオペレーション対応で思わぬ出費や労力を迫られている。売上アップへの取組は後回しになるであろう。
		衣料品専門店(店舗運営)	・全社で冬商材の売り尽くしを行うため、一定の売上は確保できると考える。
		家電量販店(店長)	・消費税の引上げ前の駆け込みまでピークはこないとみている。
		家電量販店(店長)	・暖冬の影響で季節商材の売行きが悪く、その影響で来客数が減少しており、その他の商品にも影響が出ている。

自動車備品販売店（役員）	・カー用品では引き続き、あおり運転報道により、前後撮影可能な性能重視のドライブレコーダーを希望する客が多く、今後も期待できる。しかし他商品群では縮小傾向が続き、全体では明るい兆しが見えない。
住関連専門店（役員）	・年間でも繁忙期に入り、季節商材などを中心に活発に動く時期ではあるが、伸び悩んでいる。また、年末需要も例年は少なからず実績を作るきっかけではあるが、今年に限ってはその動きがみられない。
その他専門店〔酒〕（経営者）	・これ以上悪くなってほしくないということで、変わらないとした。とにかく不景気という言葉が身にしみて、麻痺している状態である。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・来店客の買い控えなどは発生しておらず、衣料品が下げ止まりしつつあるので、今後も比較的安定して推移するとみられる。
高級レストラン（スタッフ）	・シーズンのには新年会がある時節だが、忘年会や歓送迎会に比べるとボリュームも少なく予算も低い。また、年間を通して予約の少ない時期であり、現在の予約状況に大きな変化はない。
一般レストラン（店長）	・前年の印象からか、観光客は雪に敏感になっているようである。天候次第で分からない。
一般レストラン（統括）	・全体として日常的に利用する外食の利用頻度は特に変わらない様子である。ただし、価値がない、高いと判断した商品の売し点数の下がり方は、以前に比べ更に厳しかった感覚がある。特に30～40歳代の客にその傾向は強い。
観光型旅館（経営者）	・今年の大雪の影響か2月の先行予約は弱いですが、今年は直前でのキャンセルが多かったので、来年の2月は最終的に例年並みの売上になると見込んでいる。
都市型ホテル（スタッフ）	・前年は大雪などの自然災害でかなり影響があった。その反動で売上が伸びる可能性はあるが、消費環境が良くなっているようには感じないので不安がある。
旅行代理店（所長）	・得意先の経費削減により、受注状況が大きく変化する可能性がない。
旅行代理店（支店長）	・旅行需要に変動がみられない。
タクシー運転手	・年明けから観光の予約が順調に入っている。
通信会社（営業担当）	・販売量に大きな変化はみられない。前年比と同様に推移している。
通信会社（役員）	・BS4K放送開始効果がもうしばらく継続すると考えており、好調なテレビ契約獲得数の維持を期待している。
通信会社（営業担当）	・前年度と比較し、学生向けの新規契約が前倒しになっている傾向があり、今後もその数は増えると見込まれるため、来客数の伸びや売上も同等レベルで増えてくるとみている。
競輪場（職員）	・販売単価や来客数に大きな変化はみられない。
美容室（経営者）	・景気の状態は不安定であるが、消費者の高級志向は変わらない。
住宅販売会社（従業員）	・消費税の引上げを前に駆け込み需要があったと考えるが、消費税の引上げ後の方が減税により実質の支払が減る可能性も高くなり、今から住宅購入を考える人はいつ契約するか迷うことになる。税制はユーザーにとって良い方向になることは変わらないので、今後の需要傾向も変わらないと見込む。
住宅販売会社（従業員）	・もう少し様子を見ないと駆け込み受注がどれだけあるか分からない。
住宅販売会社（営業）	・消費税の引上げへの対策意識が高まる雰囲気がない。
一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・直近では年末にかけて一級の寒波が来るとのことなので、間違いなく客足は落ちる。ここ数年確実に年末の買物客数が落ちてきている。
一般小売店〔書籍〕（従業員）	・紙類を始め、包装資材やプラスチック、ペット関連の値上げが控えている。
百貨店（一般顧客訪問担当）	・株価が安定せず、先行きが不透明である。
スーパー（総務担当）	・ドラッグストアの生鮮食品取扱店舗が増加しており、今後も更なる競争が進む。
スーパー（統括）	・株価も含め景気が上がる見込みがない。
コンビニ（経営者）	・大雪になるとコンビニは特需があり売上は上がるが、前年の大雪の反動で今年は前年より売上が下がると見込む。
衣料品専門店（経営者）	・相変わらず天候に左右されながら、売上の低迷は続いている。

	乗用車販売店（従業員）	・雪が降る季節になり、客足も悪くなる。	
	スナック（経営者）	・国際的な要因などによる、株の乱降下などの可能性も先々にあり、心がふさぎ込んでしまう状態も見受けられる。また、4～5月の大型連休など、かなりの売上の落ち込みが予想され、事業主の人達からも心配の声を聞く。	
	観光型旅館（スタッフ）	・前年比の予約保有率は12月が103%、1月が111%と上回っているが、2月は85%、3月は90%と悪化している。	
	テーマパーク（役員）	・前年同月比でみた場合、2～3か月先の予約状況は国内の団体客を中心にやや悪くなっており、全体としてもそのように推移するものとみている。	
	その他レジャー施設 [スポーツクラブ]（総支配人）	・いよいよ真冬に入ってくるため、大人も子供も入会や体験の動きが減少する。	
	× タクシー運転手	・今月は忘年会で忙しく、年明けからは新年会もあるが、それが終われば静かになり、タクシー利用客も減る。	
企業 動向 関連 (北陸)	-	-	
	精密機械器具製造業（役員）	・春先までの今後の生産量は、通常の季節変動以上に多い状況が続く計画となっている。ただ現場の人員計画はやや不足気味が予想されるので、間接部門などからの応援も計画している。	
	建設業（経営者）	・国土強じん化の方針により、補正予算でも防災関連の発注が増えそうである。	
	プラスチック製品製造業（企画担当）	・今後の成り行きに懸念材料はあるものの、足元からの当面の見通しは引き続き堅調と考える。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	・国内設備投資の需要を背景に、産業機械向け部品の受注は物流系を中心に好調に推移しているが、以前ほどの大きな伸びもみられず、今月並みの調子で推移するとみている。	
	輸送業（総務担当）	・燃料価格の下落により企業収益が改善し、従業員の処遇改善が進むことを期待している。	
	通信業（営業）	・引き合いが安定していることから、受注が減少することはないとみる。	
	司法書士	・年初にも、ホテルや工場、マンションなどの大きな保存登記の予定が続いている。また、土地家屋調査士が多忙で仕事の受託が難しい状況にある。	
	税理士（所長）	・取り巻く環境が、以前とそれほど変わらない。賃金の引上げにはなかなか至っていない中小企業が依然として多く、元請から下請への値引きという形の圧力も依然としてある。このサイクルはマイナスにしかならず、本当に元請も考えてほしい。	
	食料品製造業（経営企画）	・年末の需要期が過ぎ、1年で最も売れない期間に入る。	
	繊維工業（経営者）	・1～3月は見通しが良かったが、ここきて株安や米中貿易摩擦など、余り良い情報が入ってこない。	
	金属製品製造業（経営者）	・当社の客が、その取引先から注文をキャンセルされている。半導体関連の需要が落ちるとみている。	
	一般機械器具製造業（総務担当）	・米中貿易摩擦の激化など、保護貿易主義的な動きも目立ち、欧州各国の政治的混乱もあいまって、先行きに不透明感が漂いつつある。	
	金融業（融資担当）	・株価の下落もあって消費マインドは低い。	
	金融業（融資担当）	・百貨店や小売店からは、絵画や宝飾品、高級時計などの高額商材の売行きは、直近1年くらい常に好調との報告を受けてきたが、株価の下落などで資産効果が弱まると、今後低調に転じる可能性が出てきたと考える。	
	不動産業（経営者）	・今月の問合せやいろいろな業者の話を見ると、個人客からの問合せが少なくなってきており、法人関係の問合せもかなり減ってきたということである。	
	×	新聞販売店 [広告]（従業員）	・紙のストック不足と高騰のせいなのか、12月のチラシへの出稿は、前年から大幅に落ちた。この状況がいつまで続くのか、先が見えない。
	雇用 関連 (北陸)	-	-
		新聞社 [求人広告]（営業）	・年末から新元号、新しい時代への期待感が見受けられる。これまでにない空気感があるようである。
人材派遣会社（役員）		・募集をかけても派遣システムへの申込みは少なく、マッチングに苦労している。	

	求人情報誌製作会社（編集者）	・大きな雇用の話が出てこない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・消費税の引上げに絡む景気対策は一般の方には分かりにくいものばかりで、逆に消費税の引上げの深刻さを深く印象付けてしまっている。経済自体は悪い材料もあるが、それなりに回っているだけに雰囲気を下げる動きは望ましくない。
	職業安定所（職員）	・最近の求人の傾向としては、多少増減はあるものの高い位置での横ばい状態が続いている。いっときに比べれば高い伸びはなく、やや落ち着いた傾向がみられる。マスコミなどで日米の貿易摩擦についての景気への影響などがいろいろ言われているが、窓口で求人事業主からは、今のところ具体的に将来の企業の展望についての不安めいた声は聞こえてこない。これまでどおり、業務増にかかる労働力の確保や、高齢化に対応した人材確保にかかる声が多い。
	民間職業紹介機関（経営者）	・1～3月にかけて毎年、退職者が増える傾向にある。そこからの求職者は紹介、派遣の候補になるが絶対数が限られ、求職者に余裕があるところまでは達せず、人手不足には変わらない。
	学校〔大学〕（就職担当）	・求人票の出方が早くなっている。ワンデーのインターンシップを実施する企業数も前年同期より増えている。
	-	-
x	-	-